

チューナーベースユニット

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MB-X6



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したときは



- ① 電源を切る。
- ② 電源コードや接続コードを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡する。

炎が出たら



すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる可能性があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



アース線を
接続せよ



指示

目次

| | |
|---|-----|
| ⚠ 警告..... | 4 |
| ⚠ 注意..... | 5 |
| その他の安全上のご注意..... | 6 |
| 使用上のご注意 | 7 |
| 取り扱い上のご注意 | 7 |
| お手入れ..... | 7 |
| 特長 | 7 |
| 各部の名称と働き..... | 8 |
| 前面パネル | 8 |
| 後面パネル | 8 |
| 接続 | 9 |
| アンテナの接続..... | 9 |
| チューナーユニットの取り付け..... | 9 |
| UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 について | 11 |
| 前面パネル | 11 |
| ディスプレイ部..... | 11 |
| チャンネル設定..... | 12 |
| 操作 | 13 |
| 受信チャンネルの選択..... | 14 |
| チューナーユニット内蔵チャンネルプラン | 14 |
| 空きチャンネル自動検索 / 設定機能..... | 14 |
| ラックマウント | 15 |
| 仕様 | 裏表紙 |
| 保証書とアフターサービス..... | 裏表紙 |
| 保証書 | 裏表紙 |
| アフターサービス | 裏表紙 |



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。

内部の調整や設定及び点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ラックマウントするとき、レールにはさみ込まない。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多いところでは設置・使用しない

上記のような場所や、取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

サービストレーニングを受けた技術者以外はサービスを行わない

事故を防ぐために、サービストレーニングを受けた技術者以外は、サービスを行わないでください。



禁止

製品の上に乗らない、重いものを乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



指示

付属の電源コードを使用する

付属の電源コードを使わないと、火災や感電の原因となることがあります。



指示

電源コードのプラグ及びコネクターは、突き当たるまで差し込む

まっすぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となることがあります。



指示

本機は日本国内用です

交流 100V でお使いください。
海外などで異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



注意

下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

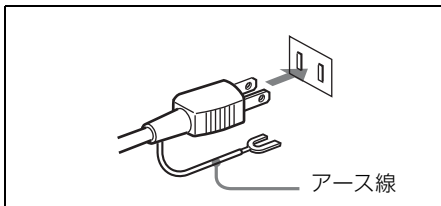


アース線を接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- アース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者にご相談ください。



指示

安定した場所に設置する

製品が倒れたり、搭載した機器が落下してけがをすることがあります。

十分な強度がある水平な場所に設置してください。



指示

小型のマイナスドライバーで脚のピンを外す

ラックマウントするとき、脚の真ん中に付いているピンを外す必要があります。小型のマイナスドライバーを使用してください（15 ページ参照）。他の先が鋭利な物を使用すると、けがの原因となることがあります。



指示

受信待機時や電源の ON / OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

受信待機時や RF（高周波）入力レベルが小さくなったとき、また電源の ON / OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。

その他の安全上のご注意

警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。

万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

- アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。
- 機器は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置へ容易に手が届くようにしなければならない。

ご注意

- 付属の電源コードは本機の専用品です。他の機器には使用できません。
- 機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

使用上のご注意

取り扱い上のご注意

- 本機は周囲温度 0℃～40℃の範囲で使用してください。
- 本機を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶついたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

特長

MB-X6 は、別売りのワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-X1/X2 に付属するダイバーシティチューナーモジュール URX-M1 または別売りの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 を、最大 6 台まで装着可能なチューナーベースユニットです。

多チャンネル同時運用チャンネルプランに対応

多チャンネル同時運用チャンネルプランに対応するチューナーユニットを装着することにより、混信することなく安定した受信が可能なチャンネル設定を容易に行うことができます。

ラックマウントに対応

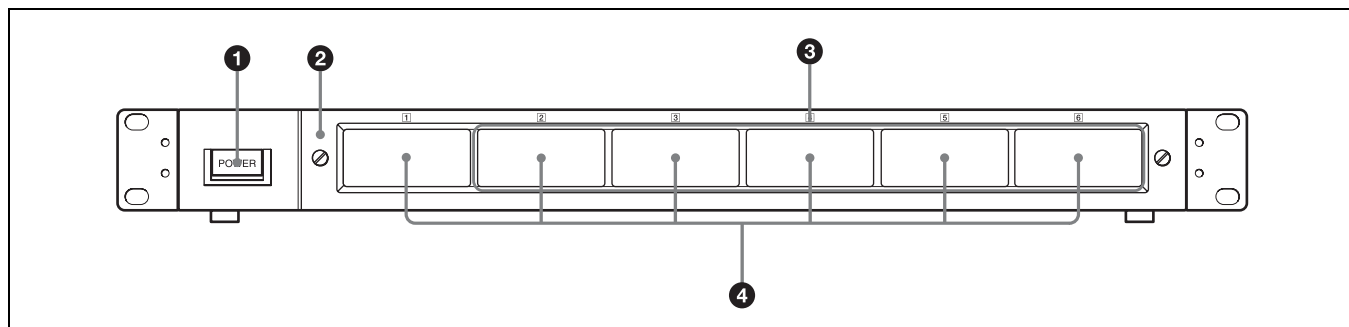
EIA 規格の 19 インチ標準ラック（1U サイズ）にラックマウント可能です。

ご注意

ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP シリーズには、トランスミッター（WRT シリーズ）、チューナー（WRR シリーズ）、チューナーユニット（WRU シリーズ）との互換性はありません。

各部の名称と働き

前面パネル



① POWER (電源) スイッチ

本機の電源を ON / OFF します。

② フロントカバー

チューナーユニットを固定するためのカバーです。

チューナーユニットの着脱の際には、フロントカバーを取り外します。

◆ 詳しくは、「チューナーユニットの取り付け」(9 ページ) をご覧ください。

③ ブランクパネル

チューナーユニットを増設する場合は、これらのパネルを取り外します。

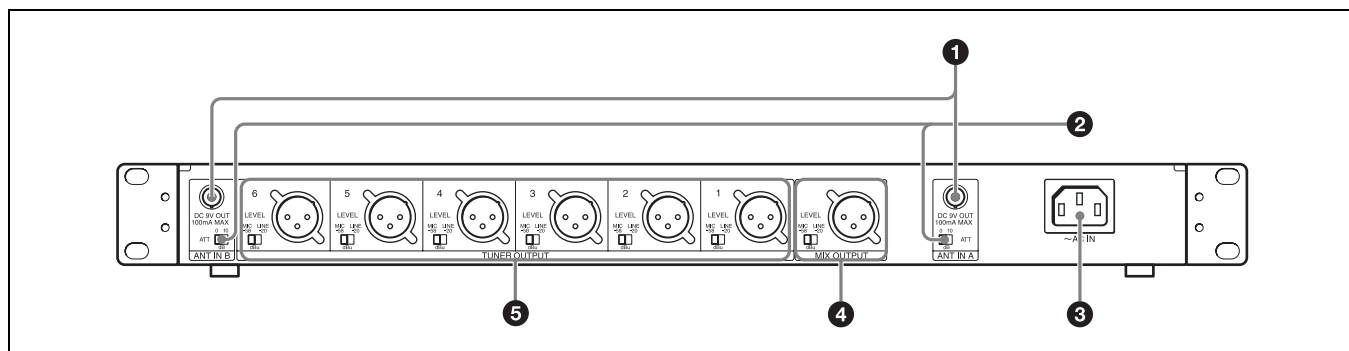
◆ 詳しくは、「チューナーユニットの取り付け」(9 ページ) をご覧ください。

④ チューナーズロット

スロット ① ~ ⑥ に 1 台ずつ、最大 6 台のチューナーユニットを装着できます。

◆ 詳しくは、「チューナーユニットの取り付け」(9 ページ) をご覧ください。

後面パネル



① ANT IN A/B (アンテナ入力 A/B) / DC 9V OUT (DC 9V 出力) 端子 (BNC タイプ)

付属のアンテナまたは別売りの UHF アンテナ AN-820 を取り付けます。

AN-820 を取り付けたときは、この端子からアンテナの内部ブースターに DC 9V の電源が供給されます。

【ご注意】

この端子をショートさせないでください。

② ANT IN A/B ATT (アンテナ入力 A/B アッテネーション) スイッチ

RF アッテネーションのレベルを 0dB または 10dB に設定します。

ANT IN A/B / DC 9V OUT 端子に接続するアンテナに合わせて、以下のように設定することをおすすめします。

付属のアンテナを使う場合：0dB

別売りの UHF アンテナ AN-820 を使う場合：アンテナと本機を接続する同軸ケーブル（5D-2V、RG-212/U など）の長さが 30 m 以下のときは 10dB、30 m を超えるときは 0dB

で注意

混信・妨害などによりノイズや音切れが発生する場合は、10dB に設定してください。

③ ~ AC IN (AC 電源入力) 端子

付属の AC 電源コードで AC 電源に接続します。

④ MIX OUTPUT (ミックス出力) 端子 (XLR-3-32 タイプ)

6 台のチューナーユニットのミックス音声を出力します。ミキサー、アンプなどの音声入力端子に接続します。

MIX OUTPUT LEVEL (ミックス出力レベル) スイッチ

MIX OUTPUT 端子の出力を - 20 dBu または - 58 dBu に設定します。(0 dBu = 0.775 Vrms)

接続する機器の入力レベルに応じて切り換えてください

⑤ TUNER OUTPUT (チューナー音声出力) 端子 (XLR-3-32 タイプ)

各チューナーユニットの音声信号を出力します。ミキサー、アンプなどの音声入力端子に接続します。

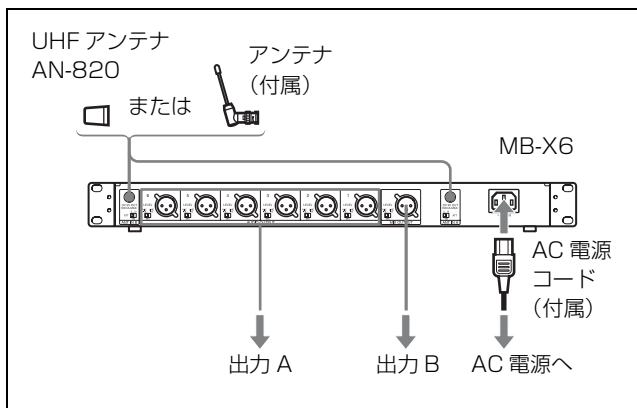
TUNER OUTPUT LEVEL (チューナー音声出力レベル) スイッチ

TUNER OUTPUT 端子の出力を - 20 dBu または - 58 dBu に設定します。(0 dBu = 0.775 Vrms)

接続する機器の入力レベルに応じて切り換えてください。

接続

アンテナの接続



出力 A または B を、ミキサーまたはアンプに接続します。

で注意

- 同じ種類のアンテナを対にしてお使いください。
- アンテナの先端が上を向くように取り付けてください。

チューナーユニットの取り付け

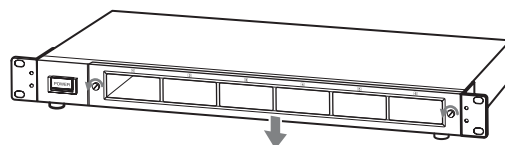
本機は、別売りのワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-X1/X2 に付属するダイバーシティチューナーモジュール URX-M1 または別売りの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 を、最大 6 台まで装着できます。

で注意

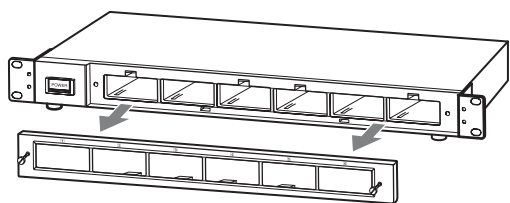
- チューナーユニットの取り付けの前に、必ず本機の電源を OFF にしてください。
- チューナーユニット後面の端子部に手を触れないでください。
- 取り付けの際には、静電気にご注意ください。

取り付けかた

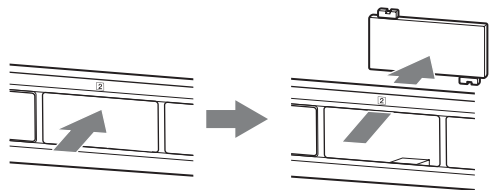
- 1 フロントカバー左右の 2 本のネジをゆるめ、フロントカバーを下へスライドさせる。



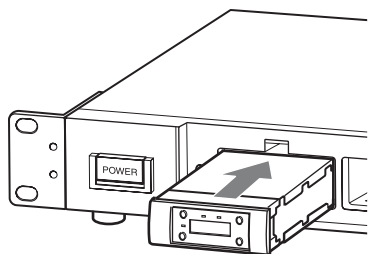
- 2** フロントカバー左右のネジの頭を持って引き出し、フロントカバーを外す。



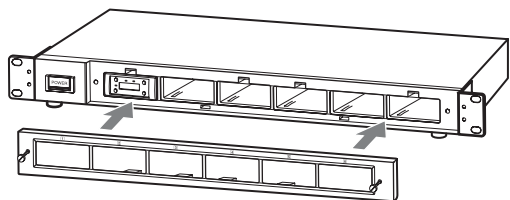
- 3** スロット 2 以降にチューナーユニットを取り付けるときは、フロントカバーの表側から取り付けたいスロットのブラックパネルを押し、取り外す。



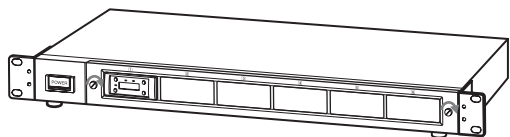
- 4** スロットにチューナーユニットを押し込む。



- 5** フロントカバー裏面の6個のツメを本体のフロントパネルの穴にしっかりと合わせ、フロントカバーをはめ込む。

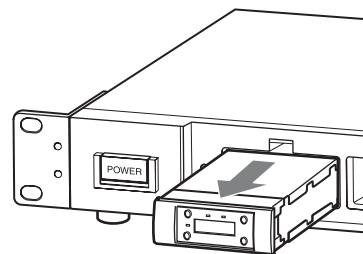


- 6** フロントカバーのネジを締め、固定する。



取り外しかた

フロントカバーを外した状態でチューナーユニットの上下をつまみ、スロットから引き出します。

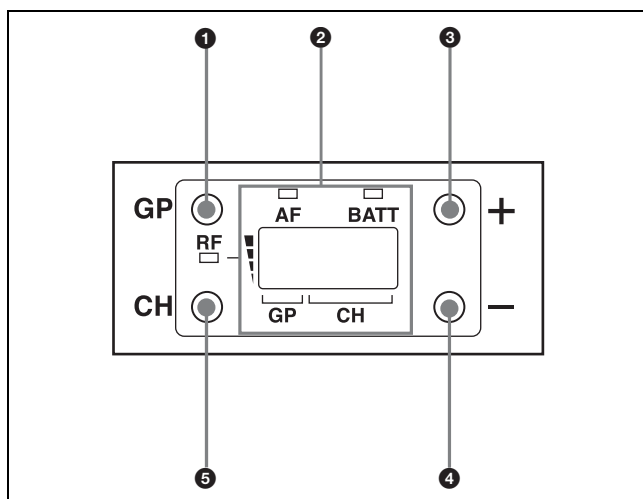


UHF シンセサイザー チューナーユニット WRU-806 について

ここでは、別売りの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 の各部の名称と働きおよびチャンネル設定の方法について説明します。

◆ 別売りのワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-X1/X2 に付属するダイバーシティチューナーモジュール URX-M1 の各部の名称と設定方法に関しては、UWP-X1/X2 に付属の取扱説明書をご覧ください。

前面パネル



① GP (グループ) ボタン

グループを切り換えるとき、このボタンを押しながら、+ または - ボタンを押します。

② ディスプレイ部

設定されているグループやチャンネルおよび各種情報を表示します。

◆ 詳しくは、次項「ディスプレイ部」をご覧ください。

③ + ボタン

グループまたはチャンネル切り換えを先に進めるとき、GP ボタンまたは CH ボタンを押しながらこのボタンを押します。単独で押すと、ディスプレイ部が周波数表示に切り換わります。

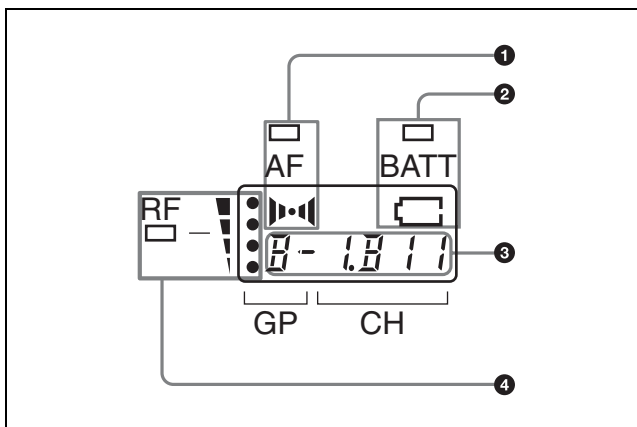
④ - ボタン

グループまたはチャンネル切り換えを戻すとき、GP ボタンまたは CH ボタンを押しながらこのボタンを押します。

⑤ CH (チャンネル) ボタン

同じグループ内でチャンネルを切り換えるとき、このボタンを押しながら、+ または - ボタンを押します。

ディスプレイ部



① AF (音声出力) インジケータ／ AF (音声出力) レベル表示

基準レベル以上の音声信号が出力されるとインジケータが点灯し、表示が現れます。

② BATT (電池) インジケータ／ BATT (電池) 表示

バッテリーアラーム機能付きの送信機の電池がなくなる約 1 時間前になるとインジケータが点滅し、表示が現れて点滅を始めます。点滅が始まるまでの時間は、送信機に使用している電池のタイプおよび状態によって異なります。

③ GP/CH (グループ / チャンネル) 表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。+ ボタンを押すたびに、受信チャンネルのグループ / チャンネル表示と周波数表示が切り換わります。

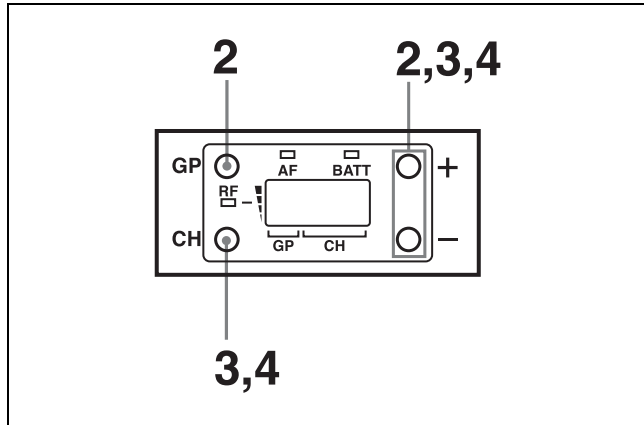
④ RF (高周波入力) インジケータ／ RF (高周波入力) レベル表示

接続したアンテナの受信状態が良好なとき、インジケータが点灯し、レベル表示のドット (・) が現れます。高周波入力のレベルによって、現れるドットの数が変わります。

チャンネル設定

で注意

本機を同時に2台以上使用する場合は、混信や雑音を防ぐため、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください（00グループ以外）。



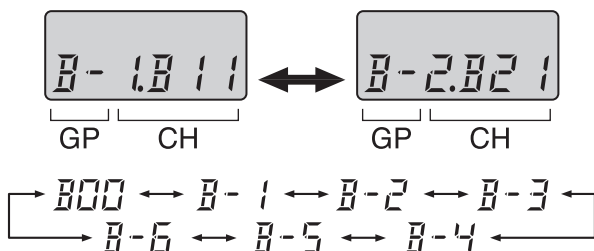
1 MB-X6のPOWERスイッチを押して、電源を入れる。

チューナーユニットのディスプレイ部に「HELLO」と表示され、電源を切る前に設定した内容が表示されます。

2 GPボタンを押しながら+または-ボタンを押してグループを選択する。

+または-ボタンを押すたびに、下図の順にグループ表示が切り換わります。

+または-ボタンを押したままにすると連続して切り換わります。



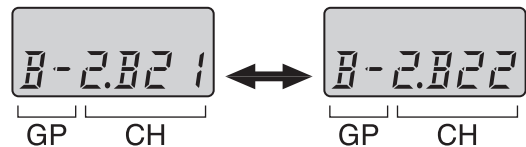
CH表示には、選択したグループ内で一番周波数の低いチャンネルが表示されます。

GPボタンと+または-ボタンを離すと、自動的に選択モードが解除され、そのときに表示されているグループが選択されます。

3 CHボタンを押しながら3秒以内に+または-ボタンを押してチャンネルを選択する。

手順2と同様に、+または-ボタンを押すたびに、「チューナーユニット内蔵チャンネルプラン」の表（14ページ）に示されている順にチャンネル表示が切り換わります。

グループ内の最後のチャンネルが表示されているときに+ボタンを押すと、グループの最初のチャンネルに戻ります。



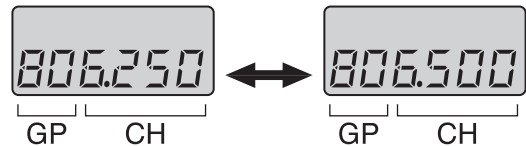
周波数を表示してチャンネルを選択するには

+ボタンを押します。

表示がグループ/チャンネル表示から周波数表示に切り換わります。

CHボタンを押しながら+ボタンを押すと周波数が上がり、-ボタンを押すと下がります。

もう一度+ボタンを押すと、グループ/チャンネル表示に戻ります。



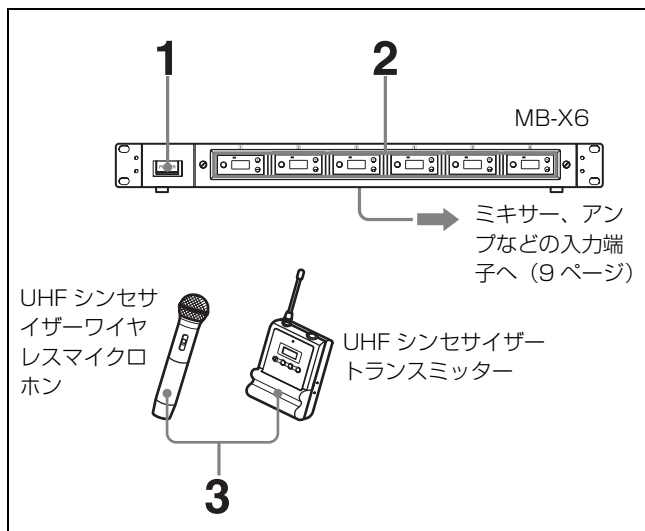
4 希望のチャンネルまたは周波数が表示されたら、CHボタンと+または-ボタンを離す。

選択したチャンネルが設定されます。

グループ/チャンネルのメモリーについて

上記の手順で選択、設定したグループ/チャンネルは、ディスプレイ部に表示されてから1秒後にメモリーされます。

操作



1 MB-X6 の POWER スイッチを押して、電源を入れる。

チューナーユニットのディスプレイ部に「HELLO」と表示され、電源を切る前に設定した内容が表示されます。

2 チューナーユニットの受信チャンネルを設定する (12 ページ)。

3 ワイヤレスマイクロホン、またはトランスミッターの電源を入れる。

ワイヤレスマイクロホン、またはトランスミッターは、チューナーユニットと同じチャンネルに設定してください。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。

このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターの電源を OFF にしたままチューナーユニットのチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネル (雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル) を選択して使用してください。ワイヤレスマイクロホンやトランスミッター側も、同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定したマイクロホンやトランスミッターを同時に2本 (2台) 以上使用しないでください。
- チューナーユニットを同時に2台以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれを設定してください。
- 送信機と受信アンテナを、互いに3m以上離れた状態で使うことをおすすめします。
- 仕切りや障害物がなく見通せる広い空間で2つ以上のシステムで同一グループを使用する場合は、システム間の距離を100m以上離してください。(距離は使用環境により異なります。)

受信チャンネルの選択

チューナーユニットが装着されているとき、本機はB型帯域30チャンネルから任意に選択した1チャンネルを受信します。

ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。

はじめにグループ(00グループ以外)を指定し、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。ワイヤレスマイクロホンまたはトランスミッターの送信チャンネルを、本機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

B型標準チャンネルプラン表

| チャンネル | 周波数 (MHz) |
|-------|-----------|
| B-11 | 806.125 |
| B-12 | 806.375 |
| B-13 | 807.125 |
| B-14 | 807.750 |
| B-15 | 809.000 |
| B-16 | 809.500 |
| B-21 | 806.250 |
| B-22 | 806.500 |
| B-23 | 807.000 |
| B-24 | 807.875 |
| B-25 | 808.500 |
| B-26 | 808.875 |
| B-31 | 806.625 |
| B-32 | 806.875 |
| B-33 | 807.375 |
| B-34 | 808.250 |
| B-35 | 808.625 |
| B-36 | 809.250 |
| B-41 | 806.750 |
| B-42 | 807.500 |
| B-43 | 808.000 |
| B-44 | 809.125 |
| B-45 | 809.375 |
| B-46 | 809.750 |
| B-51 | 807.625 |
| B-52 | 808.125 |
| B-53 | 808.375 |
| B-54 | 808.750 |
| B-55 | 809.625 |
| B-61 | 807.250 |

チューナーユニット内蔵チャンネルプラン

| グループ名 | 00 | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| チャンネル名 | B-11 | B-21 | B-31 | B-41 | B-51 | B-61 |
| | B-12 | B-22 | B-32 | B-42 | B-52 | |
| | B-13 | B-23 | B-33 | B-43 | B-53 | |
| | B-14 | B-24 | B-34 | B-44 | B-54 | |
| | B-15 | B-25 | B-35 | B-45 | B-55 | |
| | B-16 | B-26 | B-36 | B-46 | | |

| グループ名 | B-1 | B-2 | B-3 | B-4 | B-5 | B-6 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| チャンネル名 | B-11 | B-21 | B-31 | B-41 | B-51 | B-61 |
| | B-12 | B-22 | B-32 | B-42 | B-52 | |
| | B-13 | B-23 | B-33 | B-43 | B-53 | |
| | B-14 | B-24 | B-34 | B-44 | B-54 | |
| | B-15 | B-25 | B-35 | B-45 | B-55 | |
| | B-16 | B-26 | B-36 | B-46 | | |

さらに、上記チャンネルプラン以外に7チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが2つあります(下表)。

| グループ名 | B-7 | B-8 |
|--------|------|------|
| チャンネル名 | B-11 | B-21 |
| | B-12 | B-31 |
| | B-33 | B-13 |
| | B-52 | B-14 |
| | B-54 | B-25 |
| | B-36 | B-16 |
| | B-55 | B-46 |

ご注意

別売りのUHFシンセサイザーチューナーユニットWRU-806を使用する場合は、グループ00またはグループB-1～B-5でB-7列、B-8列のチャンネルを設定してご使用ください。

空きチャンネル自動検索 / 設定機能

多チャンネル同時運用時に複数のチャンネルを設定する場合は、本機のスロット **1** に装着したチューナーユニットに対してグループを設定することによって、他のすべてのスロットのチューナーユニットを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

- 1 マイクロホンおよびトランスミッターの電源をすべてOFFにする。

2 スロット 1 のチューナーユニットで、使用するグループを設定する。

3 別売りのワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-X1/X2 に付属するダイバーシティーチューナーモジュール URX-M1 がスロット 1 に装着されている場合

チャンネルグループ表示が点滅から点灯に変わったのを確認してから（設定から約 10 秒後）、スロット 1 のチューナーモジュールの+ボタンを 3 秒以上押し続けたままにする。

別売りの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 がスロット 1 に装着されている場合

スロット 1 のチューナーユニットの CH ボタンを 3 秒以上押し続けたままにする。

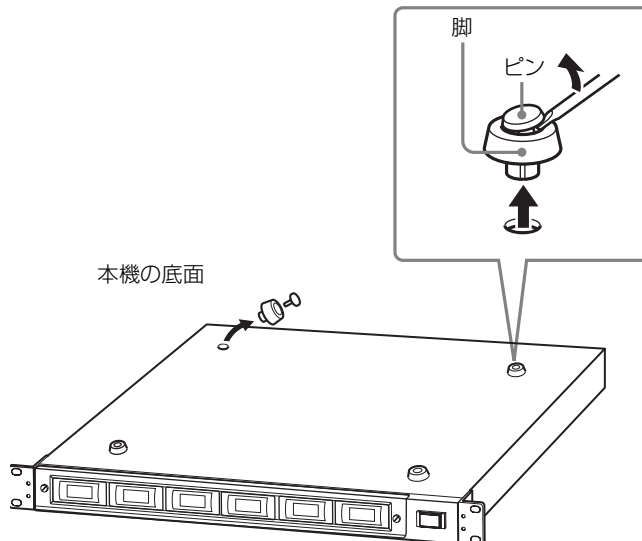
装着されているすべてのチューナーユニットが、同じグループの異なるチャンネルに自動的に設定されます。自動設定後に、各チューナーのグループおよびチャンネルを個別に変更することもできます。

ご注意

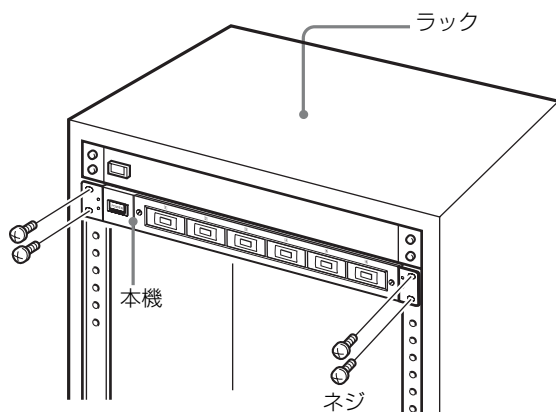
- グループ 00 以外で行ってください。
- 外来電波などの影響で運用できないチャンネルがあった場合、チャンネルの設定ができなかったチューナーユニットのディスプレイ部に「NO CH」を表示されます。この場合は、外来電波のない別のチャンネルグループを選択して、上記の手順を再度行ってください。

ラックマウント

1 本機底面の脚の真ん中にあるピンを、小型のマイナスドライバーなどを使って引き抜き、すべての脚を外す。



2 ラックのネジ径に合ったネジ(有効長12mm以上)を使って、ラックに本機を取りつける。



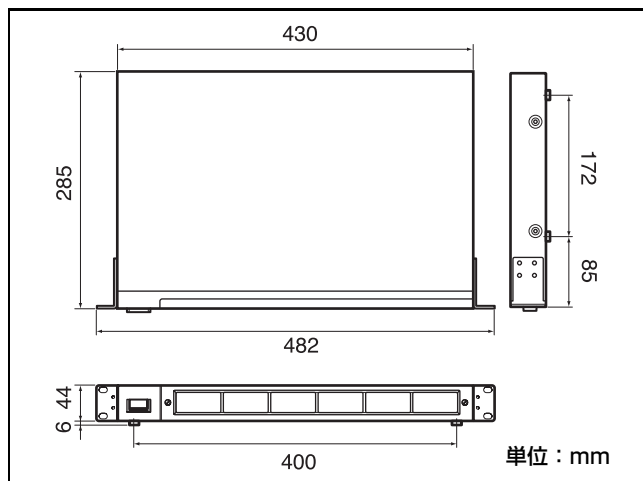
仕様

オーディオ出力部 (TUNER OUTPUT 1 ~ 6 / MIX OUTPUT)

| | |
|-------------|---|
| 端子形状 | XLR-3-32 (凸) 相当 |
| 出力インピーダンス | 47 Ω 以下 |
| 適合負荷インピーダンス | 600 Ω 以上 |
| 基準出力レベル | - 58 dBu (MIC 設定時) - 20 dBu (LINE 設定時) |
| 最大出力レベル | + 16 dBu (LINE 設定時) 0 dBu = 0.775 Vrms |

電源部・その他

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 電源電圧 | AC 100 V、50/60 Hz |
| 消費電力 | 24 W |
| アンテナブースター供給電圧 | DC 9 V (最大 100 mA) |
| 動作温度 | 0 °C ~ 40 °C |
| 保存温度 | - 20 °C ~ + 55 °C |
| 外形寸法 | 482 × 44 × 285 mm (幅 / 高さ / 奥行き) |



| | |
|-----|---|
| 質量 | 約 5.5 kg (チューナーユニット含まず) |
| 付属品 | AC 電源コード (1) アンテナ (2) 取扱説明書 (1) 保証書 (1) ソニー業務用ご相談窓口のご案内 (1) |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea